

コープデリグループは、ステークホルダーとの協同・連携を重視し、社会性・透明性・公正さ・適正さを確保しながら経営の効率性を高め、健全経営を全うすることをガバナンスの目的としています。

総代会での意思決定と監査

生活協同組合であるコープみらいの最高の意思決定機関は、組合員の代表、総代による会議体である総代会です。総代は、コープみらいの事業エリアを22に分けた、各ブロックで選ばれます。通常総代会に向けて年3回ブロックごとに総代会議を行い、通常総代会に提案する議案を丁寧に総代と話し合い、頂いた意見を議案に反映させています。そして毎年6月に通常総代会を開催し事業報告や事業計画、予算、役員（理事・監事）選任などの議案を議決します。

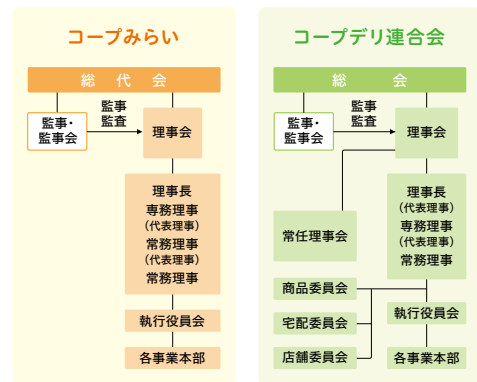
事業報告の適正さを確保するため、監事や公認会計士による監査を実施しています。

業務執行体制

コープみらいは、理事会を毎月開催し、業務執行全般に関する重要事項を決定するとともに、代表理事による業務執行状況を監督しています。またコープみらいとコープデリ連合会は、専務理事（代表理事）をはじめとする役員体制を兼任とすることで一体運営をしています。

理事会のもとに執行役員会を毎週開催し、コープみらいとコープデリグループ全体の経営課題について迅速な意思決定と業務執行を行えるようにしています。

また、CSR推進体制として、コープみらい・コープデリ連合会ではISO26000に準拠したCSR課題・目標を執行役員会で確認し、進捗管理を行っています。



内部統制について

コープみらい・コープデリ連合会は、「内部統制に関わる基本方針」を定め、右の体制の整備を進めています。またその運用状況を毎年点検し強化を図っています。

リスク管理については、毎年事業経営に与えるリスクを洗い出し、そのリスク評価から共通重点リスクを設定し、その対応策の進捗を点検しています。

2017年度は、コープデリグループ全体で571項目のリスクを洗い出し、そのリスクについて評価を行いました。その結果、「安全運転」「個人情報の保護」「食品安全」「コンプライアンス」「人員不足・人材育成」の5つを共通重点項目として179のリスク項目を設定し、進捗管理を進めています。

- 1 コンプライアンス体制
- 2 情報管理体制
- 3 リスク管理体制
- 4 効率性確保体制
- 5 子会社など管理体制
- 6 業務の適正を確保する体制
- 7 監事の監査環境の整備、監事への報告に関する体制

危機管理システムについて

重大な事故が発生した場合に、その情報がトップに迅速・的確に報告され、適切に対応できるよう「クライシス・重大事故等対応規程」を整備し、運用しています。また、危機管理に関わる連絡・報告、対策本部の運営、広報等に関わる手順の整備・見直しを行いました。

情報セキュリティについて

情報漏えい対策や外部からの攻撃対策の管理を強化するため、情報セキュリティ委員会を毎月開催し、課題の進捗管理を行っています。また、全部署で情報セキュリティ教育を開催し、セキュリティの意識向上を図っています。

地震・自然災害への対応

地震災害や台風・風水害などの大規模災害は、あらゆるステークホルダーに甚大な被害を与える可能性があります。コープデリ連合会では会員生協、子会社とともに大規模な災害で被害を受けた場合でも、早期に事業を再開・継続できるよう「地震災害事業継続計画」の見直しや、図上演習、職員の安否確認訓練、無線通信訓練等を定期的実施しています。